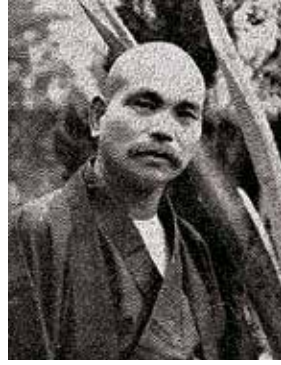




津森小の近くに建立された志賀哲太郎顕彰碑



明治の頃、台湾に渡り初等教育に尽力した志賀哲太郎

も住民に親しまれています。令和元(2019)年の顕彰碑の建立に寄せて大甲から、「一度も帰郷することが叶わなかった志賀先生の魂を古里に帰したい」と、大安溪の河原で選んだ3つの石が町に贈られました。

石は顕彰碑の台座に飾られ、志賀氏の人柄を伝える慈悲の「慈」、節儉の「儉」、謙虚の「謙」という文字がそれぞれに刻まれています。そして顕彰碑は、大甲の方向に向けて立っています。

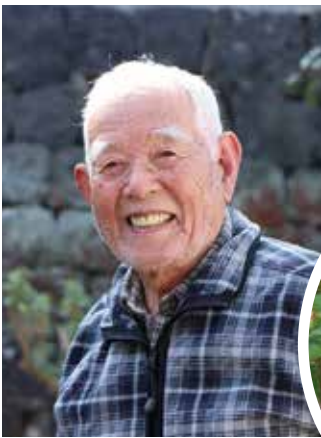
町と台湾をつなぐ偉人の功績は、これからも未来へと語り継がれることでしょう。

元気なご長寿とうれしい再会

令和3(2021)年7月号の「わがまち散歩」上陳・下陳編で訪ねた小路猛さんに再会。今年で98歳になるという猛さんは変わらぬお元気で、かくしゃくとされています。「久しぶりですな。おかげさんで体も口も達者にしとります」と、ほころぶ笑顔も健在です。

その日、猛さんはクリスマスローズの株分作業に汗を流していました。小路家の庭先では今、猛さんが丹精込めて育てているクリスマスローズが咲き誇っています。庭に腰掛けて、

今年98歳を迎える小路猛さんに再会。バリバリお元気です



右/猛さんが育てているクリスマスローズの美しいこと



コロナと春風に揺れる花姿をめでる猛さんを、穏やかな光が包み込みます。

「これから、ぬくなる(暖かくなる)ごとフキば煮たり、梅干しば漬けたり忙しゅうなるたい、ウハハハ」と笑う声も豪快で張りがあります。息子さん夫婦と囲む夕食時の晩酌が何より楽しみという猛さん。その大らかな笑顔に会い、またうかがいまーす。

小路さん宅の隣に暮らす、松本征子さんが手掛ける家庭菜園はともすてきです。庭木の間に大根や薬物野菜などが育てられており、庭を巡るようになって野菜を育てるセンスを真似したくなります。

小路さん、松本さんと同じ下陳地区に暮らす儀藤京一さんは町獵友会のメンバーの一人。



小路さんの隣家の松本さんが手を掛けている家庭菜園

85歳になった今も山に入り、害獣駆除を目的にイノシシやシカなどを狙います。儀藤さんは「くりわな」という仕掛けを使います。獣道にわなを張り、獲物が仕掛けを踏むとばねが動いてワイヤーで脚をくくるといふもの。仕留めた獲物は自ら解体し、ご近所や知り合いに分けたり、焼肉、すき焼きなどで惜しみなく食べ尽くして命に代えてあげるそうです。

そんな儀藤さんの趣味はゲートボール、グラウンドゴルフ、野菜作りなど多彩。「そっだけん、家にはいっちょんおらんたい」とお茶目に笑いました。



85歳で現役のハンターの儀藤さん



儀藤さんが仕留めた鹿の立派な角が小屋に飾られています